

全学連 ドイツ訪問速報 No.2

全学連国際部 松室しをり(intl-solidarity@hotmail.co.jp 050-3036-6464)

ドイツの反原発・反核の労働組合と合流！ 「原発は廃炉にしなければならないが、 労働者の雇用は奪われてはならない」

＜8月12日＞

☆ドイツの闘う組合と交流！

12日はVer.di（公共・サービス労組）の支部を訪問しました。

Ver.diはIGM（金属労組）と並んでドイツで1・2を争う巨大な組合で、最近もよくストライキをおこなっています。

支部組合員3万5000人の支部長から話を聞くことができました。会議室のドアをあけて中に入るとたん、週35時間労働制を求める巨大な絵が目に入ってきました。製作したのは、この支部の青年部だそうです。また、9月1日の反戦ポスターも貼ってありました。1931年9月1日にドイツがポーランドに侵攻したことにちなんで、毎年この日はドイツ中で反戦デモがおこなわれるそうです。

最初に、「反原発・反核の立場です」とはっきり言い切ったのが印象的でした。「原発は



8月11日、トリアーでマルクスの家を見学。中国からの訪問者も多いそうです。



全学連第72回定期全国大会

◇全原発の停止・廃炉！

◇「教育の民営化」と対決し、

学生自治会を甦らせよう！

【日時】

9月9日(金)～10日(土)

9日 午前9時半 開会

【会場】

9月9日 文京区民センター

(東京都文京区本郷4-15-14)

9月10日 浜町区民館

(東京都中央区日本橋浜町3-7-1)



廃炉にしないでほしいが、労働者の雇用は奪われてはならない」。沖縄の基地労働者が「死すべきは基地であり、労働者ではない」というスローガンを掲げて闘ったことが思い出されました。

日本からは動労千葉から、日本の闘いや震災以降の状況、大恐慌や新自由主義の問題、労働組合などについて話しました。原子力村の話にもなり、「このカールスルーエにも中央核研究センターがある。でもそれを隠すため、最近大学と統合して名前を変えた」そうです。日本でいえば、文部省と科学技術庁を統合し、文部科学省をつくったようなものではないでしょうか。最近では、労働条件や安全に働ける環境を保障させるために交通ストを行い、この支部では8割の組合員が参加し闘ったそうです。

「労働者がしっかり眠り、しっかり給料も年金も貰えないと、安全な運行は確保できない」という発言には、動労千葉の反合・運転保安闘争が思い出されました。さらに、原発や恐慌に話はおよび、民営化阻止については、最近ドイツで飲料水の民営化が行われたものの、それを逆転することができたそうです。こういう闘いは国際的な闘いであり、国際連帯が大事だと話は盛り上がりました。さらに、「大学で軍事研究をするな！」「原子力産業関係者や軍は大学から手を引け！」という闘いが重要だという話にも。最後に、こちらから9・11闘争と11月集会の話をさせてもらいました。

☆アルゼンチン労働運動活動家とも結合！

ドイツの仲間の友人でアルゼンチン労働運動活動家の方がちょうどドイツに！ 午後からは、アルゼンチンと日本での闘いをお互いに紹介しあい、討論することが出来ました。DVDや本も渡したのですが、その中でも星野さんの闘いについて、DVDをすぐ見てくれて、「アルゼンチンでぜひ取り組みたい」と積極的に言ってくれました。



☆リンケ・ツァイトゥング編集長と合流！

夜はリンケ・ツァイトゥングの編集長がやってきました。彼らと一緒にヴァインハイムのお祭りへ。お祭りのメインは今週末だそうです、町はすでにとてにぎわっています。

またマンハイムでは、ちょうどアナキストの人たちによるフリーマーケットが開催されていました。壁には移民排斥に反対する大きな横断幕。そして、2階のバーには様々なグループがポスターを貼ったりしています。10日の学生集会のビラもちゃんとありました。